

# 国 労 水 戸

国労水戸地方本部  
水戸市中央1-1-11  
ENYビル2F  
029-221-4008  
発行責任者 大和田亨  
編集責任者 坂本公則

## 今後の闘いで意思統一

### 分会代表者会議を開催



桜前線が北上するなか、地方本部は4月以降の取り組みについて第4回分会代表者会議を行い意思統一を図りました。会議は、第167回地方委員会を踏まえ、各分会での取り組みと成果について意見交換を行いました。地方本部菊池書記長から、委員会以降の経過及び4月以降の方針提起が行なわれ、2012年春闘、組織拡大の取り組み、分会運動について、地方本部主催レク活動、第9回職場活動家交流会、新人事賃金制度における実態調査、その他としました。特に組織拡大では、昨年の経験を活かし全機関が集中した取り組みについて要請しました。

多くの分会からは、4月以降の運動について積極的な意見が出されました。

組織強化・拡大、労働条件改善の闘いに奮闘しよう！



4月8日(日)、国労会館水戸地方本部主催「第2回地方労働講座」を開催し、講師に石丸小四郎氏(双葉地方原発反対同盟)を迎え講演を受けました。講演で石丸氏は、「未曾有の原発震災に直面して」の資料に基づき報告を行いました。

「これでもか!」と続いた。次の瞬間「短周期振動だ、原発がヤバイ!」との思いが頭をよぎった。構造物には固有の揺れやすい周期(固有周期)がある。原発の周期は0.1秒から0.5秒の範囲にあり「原発はビビリ振動に弱い」との思いがあったからだ。

「昨年3月11日、14時46分、私は薪ストーブの前にいた。何の前ぶれもなく激しい揺れに襲われヤカンがダダダーと激しい音を出し続けた。短周期振動のせいなのかヤカンはストーブから落ちない。とっさに火事を恐れ蓋を取りお湯を注ぎ込んだ。とにかく長く強

これは後の話だが原子炉建屋にいた労働者が「激しい揺れと共にコンクリート壁がビチビチブチブチの音と共にひび割れ建屋内部が白い幕に覆われた」と語っている。

次いで、防災無線の緊迫し

## こうして原発震災ははじまりました

た声で津波警報が発せられた。その日の21時ごろに「半径3km以内の住民に避難」「3km以内には屋内待避」の指示が出た。これが終わりの見えない原発震災の始まりであった。私は、これまで「原発ほど不条理で世間で不公平があり差別的なものはない...」

す「現状程度」と思う人が相当程度いると言った。この現実と言つべき言葉もない。と報告し、改めて原発事故の悲惨な状況を訴えまえました。

と思いを主張もしてきた。目にも見えず、臭いもしない、味もない放射能によって、何の落ち度もない人々がすべてを放棄して故郷を去り、子供までがマスクをして逃げ廻らなければならぬ。

逆に、それを造り最も熱狂的に推進してきた人々が安全地帯にいて「ただちに健康に影響はない」と語り事故の収束宣言を発し、再稼動と輸出まで主張している。

更に、原発から遠く離れ恩恵(電気)を享受してきたであろう人々の中に原発を「増や



石丸小四郎氏が原発震災を報告